

【足立敏之参議院議員】復興状況を調査／インドネシア地震から5年



復旧・復興の現場を調査

自由民主党の足立敏之参議院議員は8月、2018年9月に発生したインドネシア中部スラウェシ島地震で、地震・津波・地盤の液状化という未曾有の被害からの復旧・復興状況などの調査に現地を訪れた。あわせてインフラ整備などで日本企業の最新動向を調査した。足立議員は「インドネシアの発展のパワーを肌で感じた。地震災害からの復旧・復興も含めインドネシアのインフラ整備に日本の建設産業が大いに貢献していることも見ることができ、有意義な調査となった」と話している。

足立議員は19年1月に被災地に入り被害状況などの調査を行っており、4年半ぶりとなる現地調査。勾配1%程度の平たんな土地にも関わらず、液状化に伴う地盤の大規模流動で1000戸以上の家屋が流され、土砂に飲み込まれるナロド現象が発生したバル市を訪れた。植生が繁茂していたが土砂流動の痕跡は確認できた。被災者は、近く高台へ集団移転しており、復興住宅が整然と整備され、新たな生活が始まっていた。移転地周辺には商業施設などの立地が進んでいる。